

## ダイワコーポ

ダイワコーポレーション  
(曾根和光社長、東京都品川区)は、5月末にも竣工するマルチテナント(複数企業入居)型物流施設ロジポート川崎ベイ(川崎市川崎区)内に、今秋をメドにアミューズメント業界専用物流拠点を設ける。システム開発会社と共同開発のクラウド型WMS(倉庫管理システム)を導入。ゲーム機関係メーカーの共同倉庫として機能させるとともに、他の物流会社との連携も視野に入れる。

ロジポート川崎ベイは敷地面積13万4800平方

29万6700平方㍍の大型施設。ダイワコーポが賃借するのは、1階の2万6千

平方㍍。この半分のスペースに、これまでクレーンゲームの景品などを取り扱っていた東扇島の4階建ての倉庫から業務を移管し、平面オペレーションで効率化を図る。

クレーンゲームの景品は、ゲーム機メーカーだけでなく、複数の景品メーカーや商社が扱っている。新規開発会社と共同倉庫と位置付け、縫いぐるみなどサイズが大きく配送料がかかる商品の物流コスト低減を見込む。

また、昨今のドライバー不足を受け、トラックバー不足を3倍の15台に増やして待機時間削減を図る。

(吉田英行)



ロジポート川崎ベイの1階部分に、アミューズメント業界専用拠点を開設

更に、新開発のアミューズメント業界専用のクラウド型WMSを採用。ゲーム機の景品を庫内で保管中に売買できる仕組みを整えている。

将来的には、クラウド型WMSを活用して他の物流会社との連携も目指す。曾根社長(51)は「クラウド型WMSは従来の作業フローをシステム化したものではなく、フローそのものを見直しながら構築した。このため、作業手順も大幅に効率化されている。経営革新に意欲のある物流会社とのアライアンスを考えたい」と話している。